

2011 年度報告書（研究員）

氏 名	戸梶 民夫
職 位	GCOE 短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>2011 年度には、在阪性的少数者団体 QWRC に参与観察を行いながら、2003 年の創設から QWRC がどのような変化を遂げていこうとしているのかを調査することになった。</p> <p>QWRC は性的少数者や女性差別の問題に関わる活動を行い、QWRC の趣旨に沿う活動がされている人々であれば、だれでも利用することができるリソースセンターである。そのリソースセンターでは様々なミーティングやプロジェクトが毎週催されており、またそのリソースセンター自体の運営を数人のスタッフがやっている。今回の調査では、この運営会議に参加し、性的公共性を維持するプロセスにおいて文化政治の手法が直面する現在の問題を詳細に調査することを心がけた。</p> <p>また QWRC において企画されているプロジェクトの二つ、「LGBT と医療福祉」、「LGBT と労働」に参加し、専門家・支援者や外部団体との連携のプロセスにおいて、どのような問題が生み出されてくるのかを、詳細に調査することになった。</p> <p>「LGBT と医療福祉」においては、一般企業の助成金を獲得しながら、連続講座開催とパンフレットの作成を行った。そこでは、従来までの「性的少数者／専門家」の非対称な構図を固定させない試みに比べて、あえて専門家や支援者の文脈を尊重し、その医療・福祉領域の文脈の上で、性的少数者の問題をいかに差し挟んでいくかについて、具体性のある議論やワークショップを重ねていった。</p> <p>「LGBT と労働」プロジェクトでは、関西の非正規労働組合との共同連続学習企画を企画することになった。その企画の中で、性的少数者を「被傷的な人々」として非正規労働者や障害者と同じ弱者として位置づける労働組合と、性的少数者を規範から排除されたマイノリティとして位置づける QWRC の間での違いが顕在化することになった。この違いに向き合いながら、性的少数者が全く異なる労働問題の文脈のなかで、自らの問題を開示していく時に出てくる問題をつかみ出すことが試みられた。</p> <p>こうした両プロジェクトへの参加経験から、QWRC という性的公共性が現在において専門家や外部団体と連携を進めていく中で直面する問題を、つかみ出して言語化する手掛かりを獲得することができた。</p>	

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

論文

- ・ 「外見問題に関する主体化の不可能性について——男性型脱毛症とユニークフェイスの事例を参照して——」『京都社会学年報』第 11 号、2003 年（査読有）
- ・ 「クイア・パフォーマンスティヴィティと身体変形実践——トランスジェンダーの性別移行に関する移行目標の実定化と恥の解決——」『ソシオロジ』第 165 号、2009 年（査読有）

報告書

- ・ 「性の公共性の変容——2000 年代における性的少数者運動団体の軌跡から——」『京都大学 G-COE プログラム Working Paper 次世代研究 48』、2010 年

研究発表

- ・ 京都大学グローバル COE プログラム 2011 年度研究成果報告会 次世代研究報告「性的少数者の公共性変容と労働運動との連帯の両義性」、2012 年 2 月